

SBS CUP

国際ユースサッカー
第1日

SBSカップ国際ユースサッカー(日本サッカー協会、県サッカー協会、静岡新聞社・静岡放送主催)は16日、藤枝総合運動公園サッカー場で開幕した。静岡ユースは終了間際に松永颯太(清水桜が丘)の得点でU-18(18歳以下)パラグアイ代表に追い付き、PK戦の末に勝利した。U-18日本代表は宮代大聖(川崎ユース)のゴールでU-18オーストラリア代表を1-0と下し、勝ち点3で首位に立った。大会第2日は17日、愛鷹広域公園多目的競技場で行われる。

きのこの結果

静岡1-1	パラグアイ
(PK9-8)	
日本1-0	オーストラリア

きのこの試合
静岡16:00日本
パラグアイ オーストラリア
18:30 トリ
会場は愛鷹広域公園多目的競技場

静岡 パラグアイ下す



静岡ユース-U-18パラグアイ 試合終了間際、同点ゴールを決める静岡ユース・松永(左)＝藤枝総合運動公園サッカー場

PK戦9-8 土壇場技あり同点弾

【パルパレス(ボガード)を呼び込んだ。】
【評】先制された静岡だが、粘り強く守って後半終了間際、同点弾がシュートを放った。前半28分、静岡は左クロスから塩浜、清水がシュートを放った。前半27分に神田を投入し、劣勢をはね返した。静岡は27分に神田を投入し、劣勢をはね返した。

途中出場の2人の思いは「緒だった。」「点を取りにくいかもしれない」。静岡が1点を追う後半ロスタイム。神田のスルーパスに松永が反応した。息の合った連携から同点弾が生まれた。

2人の高い技術が詰まっていた。中盤でボールを拾った神田が顔を上げた瞬間、松永の動きが見えた。「いい位置にいた」とすかさずパス。松永も「右足に出してほしかった。ドンピシャ」。反転しながらパラグアイのDFを置き去りにした。「ターンは完璧」。GKの動きを見てゴール左隅に流し込んだ。

劇的ゴールを生んだトラップに、仲間には「(J-1神戸の)イニエスタみたい」と世界屈指の技巧派の名前を挙げて絶賛。松永は「練習してきた成果が出てうれしい」と笑顔を浮かべた。PK戦では神田が「チップキックを蹴っていいか?」と仲間の許可を得て、相手GKをあざ笑うような浮き球を決めた。

17日は日本戦。「技術面では負けていないと思う。勝てる部分で勝って、試合にも勝ちたい」と神田。静岡の技術を同世代のライバルにぶつけるつもりだ。(岡田拓也)

日本攻守で豪州圧倒

日本のシュートはGKの正面を突いたが、26分に宮代が相手のミスを突いて先制した。後半も檀崎、石井のシュートなどで相手ゴールを脅かした。日本は質高かったU-18オーストラリア

の宮代はシュートはGKの正面を突いたが、26分に宮代が相手のミスを突いて先制した。後半も檀崎、石井のシュートなどで相手ゴールを脅かした。日本は質高かったU-18オーストラリア

宮代一撃守備陣も奮闘

【評】日本は出足の鋭い守備でリズムをつかみ、オーストラリアを圧倒した。速攻とパスワークで序盤から好機をつくった。前半17分

が、「今日はもう1、2点決められた。もっと厳しい試合になれば、1-0では勝てない」と反省も口にした。U-17W杯ではPK戦でイングリッドに敗れたことを教訓にしている。

守備陣の奮闘もあり、オーストラリアをシュート2本に抑えた。試合中に相手の右サイドが攻撃の起点と判断すると、今

ア代表ミリッチ・アインソン監督の話。見ている人には面白い試合だったと思うが、ミスから失点し、がっかりしている。日本は高いクオリティを見せられていた。暑さの影響は多少あったが、言い訳にならない。



U-18日本-U-18オーストラリア 後半、オーストラリアの選手と競り合うU-18日本の宮代(9)＝藤枝総合運動公園サッカー場

日本はエース宮代の一撃で白星発進した。前半26分、「狙っていた」とオーストラリアDFがパスをトラップした瞬間、体を寄せてボールを奪った。内に切れ込んで左足でゴールに流し込んだ。

昨年U-17(17歳以下)ワールドカップ(W杯)で2得点を挙げた点取り屋。「1試合1点以上」の目標はクリアした

季Jリーグ戦に出場している左サイドバックの菅原を右に回して対応した。影山監督は「自分たちで工夫して、守備に安定感が出た」と話した。菅原は「集合から短い準備期間だったが、失敗してもチャレンジしよう」と話してきた。その上で勝ちにこだわった」とチームのまとまりを勝因に挙げた。(大山雄一郎)